

第 7 回 International Symposium on the New Frontiers of Thermal Studies of Materials (ISNFTSM)に参加して

2019 年 11 月 18 日に東京工業大学すずかけ台キャンパス大学会館にて、第 7 回 International Symposium on the New Frontiers of Thermal Studies of Materials (ISNFTSM) が、東京工業大学の川路均教授を実行委員長として、日本熱測定学会の主催で開催されました。本学会は約 3 年ごとに開催されている材料化学および熱力学に関わる分野のシンポジウムです。シンポジウムの趣旨として、新機能性材料を開発するために不可欠な物質の凝集機構の本質的理解を目指して、最先端の研究成果を発表し、意見交換を行う場になっています。また、世界の材料基礎科学の研究者と情報交流を深め、ナノカロリメトリーをはじめ新しい材料化学熱力学の展開をはかることを目指しています。さらに、若手研究者や学生に国際交流の場を提供することで国際力豊かな熱測定研究者の育成にも携わっています。

本シンポジウムの特徴は、Atake Lecture と称して、全体講演がシンポジウムのオープニングレクチャーとして行われることです。今回は全体講演 1 件、招待講演 10 件、ポスター発表 29 件の研究発表が行われました。熱・エントロピー科学研究センターからは高城先生、藤村の 2 名が発表に参加し、招待講演として高城先生が発表され、ポスター発表を藤村が行いました。全体講演および招待講演は、どれも貴重な講演かつ興味深い内容であり、講演者の発表に対し、若い研究者をはじめ様々な方面から積極的な質問が飛び交っていました。講演者も質問に対して熱心に応答しており、会場は活発な議論がされていたと感じました。講演発表の会場も広く、発表者の声も聞き取りやすいため、集中して議論が行なえる環境でした。研究者としてはまだまだ未熟な私にとって、会場内での様々な質問や議論を聞き、大変勉強になりました。同時に自分以外の分野に対する理解や自分の力不足を痛感したことも貴重な経験となりました。ポスター発表でも様々な分野から報告がされており、同年代の若手の研究者や学生が多数参加されていたので、和やかな雰囲気意見交換や議論を交わすことができました。私自身の発表にも何人かの方が聞きに来てくださいました。発表に関して上手く伝わらなかった部分もありましたが、アドバイスや激励までいただくことができ、今後の研究への意欲が高まりました。また、自身の英語力がまだまだ国際基準からは程遠いことも自覚しておりましたが、今回の発表や他研究者の講演発表を聞いて、将来に向けスキルアップが必要であると感じました。発表後に行われたバンケットでは、同年代の若手研究者や学生とも知り合い交流を深めることができました。同年代の研究内容を聞くのは大変刺激になりました。また、著名な先生方々との交流も深めることができ、今後の研究に対し、より一層身が引き締まる思いでした。

(藤村 順)



会場の写真(左:シンポジウムの会場案内ボード, 右:ポスター会場)